

研究倫理指針で公開の求められる研究（2018年11月09日時点）

研究件名	研究概要（利用目的・利用方法） 問い合わせ窓口	試料・情報の 入手先	入手する試料・情報	利用する 者の範囲	研究責任者名
骨髄異形成症候群 iPS 細胞を用いた治療標的分子探索	骨髄異形成症候群（MDS）iPS 細胞の遺伝子発現解析によって治療標的分子を探索します。この研究成果が新規治療薬の開発につながることを期待されます。 京都大学 iPS 研究所（連絡窓口：京都大学 iPS 細胞研究所 CiRA 倫理審査委員会事務局） http://www.cira.kyoto-u.ac.jp/j/research/disclosure.html	京都大学 iPS 研究所	骨髄異形成症候群（MDS）の患者由来 iPS 細胞 試料提供者の個人情報に関しては京都大学にて匿名化され、いかなる場合においても対応表が日本新薬に提供されることはありません。また、個人識別符号に該当するゲノムデータを取得することはありません。日本新薬が入手する情報は実験データのみで個人情報は含まれません。	日本新薬	創薬研究所 内藤はるな
疾患特異的 iPS 細胞を用いた炎症性疾患の新規治療薬の薬効評価	CINCA 症候群 iPS 細胞から作成した血液細胞を用い、過剰サイトカイン産生を制御する新規化合物を探索します。本研究により CINCA 症候群をはじめとしたクリオピン関連周期熱症候群に対する治療薬開発につながることを期待されます。 京都大学 iPS 研究所（連絡窓口：京都大学 iPS 細胞研究所 CiRA 倫理審査委員会事務局） http://www.cira.kyoto-u.ac.jp/j/research/disclosure.html	京都大学 iPS 研究所	CINCA 症候群の患者由来 iPS 細胞 試料提供者の個人情報に関しては京都大学にて匿名化され、いかなる場合においても対応表が日本新薬に提供されることはありません。また、個人識別符号に該当するゲノムデータを取得することはありません。日本新薬が入手する情報は実験データのみで個人情報は含まれません。	日本新薬	創薬研究所 内藤はるな